



副代表幹事
教育改革委員会 委員長
小林 いずみ

ANAホールディングス/三井物産
社外取締役

デジタル・ネイティブ世代の落とし穴

本誌2015年11月号の巻頭言でミレニアル世代について書いたとき、日本ではこの世代についてはほとんど語られていなかった。1年半たった現在、ミレニアル世代という言葉がようやくメディア等で登場するようになり、また、彼らがけん引するシェアリング・エコノミーが社会に認知されるようになった。日本社会もミレニアル世代以降のデジタル・ネイティブ世代の行動・価値観の変化に目を向け始めたようである。

一方、ネットへのアクセスが水や空気と同じような「当たり前」のものになることの負の側面の検証と対策は、まだ取り組まれていない。

われわれは、昨年の米国大統領選挙でその一端を実体験した。事実無根のフェイク・ニュースがもたらした効果の威力である。一瞬で世界中に広がる情報の力は既存メディアにとっての脅威であるだけでなく、人類にとっての脅威である。

問題の本質は人々の情報へのアクセスの仕方が変わることである。デジタル・ネイティブ世代の情報源はネットである。既存メディアとネットからの情報入手の決定的な違

いは、「自分が関心を持つ話題だけ」を拾うことである。

新聞・雑誌・TVのニュースであれば自分が関心を持っていない情報も自然と目や耳に入る。ネットでの検索は特定のキーワードから検索するので、真偽もさることながら、その情報がどの立場から発信されているのか、客観的、大局的な視点からの検証を経ずして信じられてしまう。多面的視点からの考察なく、極めて偏った視点で思考が形成されていく危険性を多く^{ほら}孕んでいる。

思考や言論の自由を保障することは民主主義の原点ではある。しかし客観性、大局観のない主張が氾濫しネットを通じて影響力を持つ危険は、人類の失敗の繰り返しである。プログラミング教育もよいが、将来を生きる世代がこうした落とし穴に陥ることなく、より高い目線で人生や社会を考えることができるようわれわれがすべきことは何か。疑問を持ち、多面的に答えを探し、他人との議論を通じて自己の考えを形成する力をつける手助けをしなければならないと考える。そして情報早熟のデジタル・ネイティブ世代には、そうしたスキルを身に付けるのが大学に入ってからでは手遅れである。

No.798 May 2017 経済同友 5

C O N T E N T S

特集

2017年度 通常総会・代表幹事所見
最適化の考え方と対話の場 02

Doyukai Report

第11回教育フォーラム
勉強するのは何のため?
働くってどういうこと? 11

第8回「One Company, One Athlete」
トップ・アスリートのための
支援・雇用に向けた企業説明会 15

Seminar

第155回 TCERセミナー
保育所整備の経済学
—女性の活躍と待機児童解消加速化プラン—
宇南山 卓 氏 17
一橋大学経済研究所 社会科学統計情報研究センター 准教授

Column

巻頭言 小林いずみ 01
「デジタル・ネイティブ世代の落とし穴」

リレートーク 鈴木 和洋 18
「米国の光と影から何を学ぶのか」

メールボックス 19
「官・民の立場で地方創生の仕事に携わって」

私の思い出写真館 船津 康次 22
「激動時代のダブリン大学留学」

新入会員紹介 20
代表幹事特使を米国へ派遣(第2回) 21

今月の表紙: シリーズ世界の花
【ライラック】
ヨーロッパ南東部が原産の落葉樹。ライラックという名称は英名で、日本でも使われる「リラ」という呼び方はフランスでの名称です。